

平成30年12月7日
福岡市保健福祉局
健康先進都市推進担当

福岡市政記者各位

介護現場の課題に対するスタートアップ企業からの提案を募集!!

人生100年時代を見据えた持続可能な社会をつくるプロジェクト「福岡100」では、介護現場における負担軽減や人材不足解消などといった介護分野の課題と、スタートアップ企業の多彩なアイデアや技術を結び付け、解決につなげていく取り組み「ケアテック推進コンソーシアム(以下、「コンソーシアム」という)事業を、本年10月からスタートしています。

今回、コンソーシアムにおいて**介護現場の関係者から出された課題を解決できるスタートアップ企業からの提案を下記のとおり募集**いたしますので、告知等にご協力いただきますようお願いいたします。

記

1. スタートアップ企業からの提案を求める事業について

○コンソーシアムにおいて集約された介護現場の課題(別添)10項目の解決にむけた事業

2. 応募資格について

○スタートアップ企業(法人格を有する団体・企業及びそれらに所属するプロジェクトチーム、若しくは、個人事業主)

○介護事業者への事業説明と協議を行う場「プレゼンテーション・マッチング会」に参加ができること

※平成31年1月11日16時～予定

3. 応募の方法について

○コンソーシアム HP(<https://caretech.fukuoka.jp>)から平成30年12月18日(火)正午までに応募登録

○平成30年12月25日(火)正午までに、提案書及び必要書類を(contact@caretech.fukuoka.jp)

へ送信 ※詳細は、上記コンソーシアム HP に掲載させていただいております。

お問い合わせ先

■スタートアップ企業からの提案募集に関すること

ケアテック推進コンソーシアム事務局(受託運営事業者:株式会社DAN)

担当: 段野・加藤 TEL: 092-472-0700 FAX: 092-481-1759

メールアドレス: contact@caretech.fukuoka.jp

■「福岡100」プロジェクトに関すること

保健福祉局健康先進都市推進担当

担当: 木本・吉田 TEL: 092-711-4543 (内線2056) FAX: 092-733-5587

今後のスケジュールについて

①提案募集

【応募登録締切】 平成 30 年 12 月 18 日（火）正午

【提案書提出締切】 平成 30 年 12 月 25 日（火）正午

※以下予定

②書類審査結果通知 平成 30 年 12 月 28 日（金）

③介護事業者へのプレゼンテーション・マッチング会：平成 31 年 1 月 11 日（金） 16 時～

会 場：Fukuoka Growth Next イベントスペース（福岡市中央区大名 2 丁目 6 - 1 1）

内 容：第 1 部 スタートアップ企業によるソリューション案のプレゼンテーション

第 2 部 スタートアップ企業と介護事業者のマッチング（事業を試行する介護事業者のみ参加可）

観 覧：無料（コンソーシアム HP から事前申込が必要）

④介護事業所での事業試行・評価，スタートアップ企業等への成長支援※：平成 31 年 1 月～3 月

※マーケティング，資金調達支援，必要な連携相手の紹介など

介護現場の課題

1) 求職者向けの効果的な情報発信のしくみ

〈現場の声〉

○介護職員の応募が充分ではなく、派遣や紹介に頼っている状態に、危機感を感じている。また、新卒(大学・高校・専門学校)求職者など若い人に届くような効果的な情報発信ができていない。SNS等を活用しながら、求職者向けの情報発信のしくみを構築したい(あるいは利用したい)。

2) 簡単に使える人材育成ツール

〈現場の声〉

○職員の人材育成の必要性を強く感じており、人材の育成に効果的な社内研修システムを確立したい。具体的には現場職員が理解しやすい「動画で学ぶ介護」「見て分かる接遇・マナー」など分かりやすいものが望ましく、また自事業所の環境に応じて柔軟に選べるものが欲しい。

3) 人事異動などを考慮したマニュアルの整備

〈現場の声〉

○業務内容の教育や伝達が属人的になっており、異動や採用などで入ってきた新しい人材に、うまく伝えることができていない。業務マニュアルや指導方針を簡単に作成することができ、しくみに落とし込めるようなものを利用したい。

4) 現場の負荷にならない効率的入力と記録

〈現場の声〉

○施設内や訪問時の介護記録は手書きで実施しており、システムに入力する際に読めないことが多い。手書きからシステムに移行するストレスや拒絶反応が少ない記録作成のしくみを導入したい。

○現場職員の中にはパソコンやタブレットが使えない方も多い。汎用性の高い音声入力による記録作成のしくみを利用したい。インカムの有用性は理解しているため、インカムと兼用できるようなもので利便性が追求できればありがたい。そして、それを介護記録ソフト等に反映したい。

○職員間での申し送り業務は個々人の手書きのメモ帳がベースになっており、介護記録は職員の空き時間に別途システムに入力している。介護記録と連動し、施設内のいつでもどこでも確認できる申し送りシステムを利用したい。また、バイタルや水分量等、利用者ごとの状況がわかるデータが反映しやすいしくみも考慮して欲しい。

5) 介護記録の職員間情報共有

〈現場の声〉

○現場で使う介護記録や訪問記録は手作業で記入しており、かつ紙ベースなので情報の共有範囲が限られている。紙ベースの簡便さは活かしつつ、職員間で簡単に情報共有ができるしくみを導入したい。

6) バックオフィス業務の効率化

〈現場の声〉

- 介護保険者証等の印刷されたものはレセプト管理ソフト等に手入力するため、ミスの防止のために時間が取られている。OCRソフト等で介護保険者証等をデータ化したい。
- エクセル等でデータ化されたものをさらに介護記録システムやレセプト請求システムにコピー・ペーストする無駄が生じている。データ化されたものを、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）等でシステムへ自動反映させ省力化したい。
- 個別支援計画の作成時には事業所内のパソコンやシステムにケアプランとほぼ同じ内容を手入力する必要があり、かなりの時間がかかる。ケアプランをOCRなどで読み取り、AIを用いて個別支援計画を自動作成する等のしくみを使いたい。

7) 他事業所や医療機関との情報連携

〈現場の声〉

- 緊急受け入れが重なった際など、場合によっては他事業所で受け入れが可能なことがある。また、医療機関への看取り希望の連絡の際に医療用語が分からず苦労することも多い。地域の他事業所や医療機関と連携できるシステムを利用したい。

8) 夜間介護時の負担軽減

〈現場の声〉

- 夜間介護は利用者20人を1人で担当するため、休憩が取れないことも多い。また、頻繁にナースコールする人も多く、緊急度が高い方に配慮をする余裕がない時もある。映像による夜間時の見守りシステムの導入等で必要な時に駆けつけられるようにしたい。ただし、利用者プライバシーの確保が前提である。
- 夜間介護には複数の方がナースコールを鳴らすことが度々発生し、結果的に対応が遅くなることもある。複数のコールがあった際に優先順位が分かるナースコールや判定システムを利用したい。
- 夜間介護時に排便が間に合わない時は、相当な時間を要している。利用者の尿意や便意が事前に察知できるシステムを使いたい。

9) 入浴介助時の負担軽減

〈現場の声〉

- 入浴介助時に体格の大きさや拘縮等で2人介助が必要な利用者が増えてきている。入浴介助時の腰への負担を軽減できる簡単に装着可能なツールを導入したい。
- 入浴介助において入浴時の事故が多いため、入浴時には職員を多く配置している。人の手を介さない安全性を維持した入浴支援マシン（機器）を導入したい。
- 入浴介助時に入浴拒否の利用者に時間を取られている。また、人員不足やシフトの関係で同性介助ができないこともある。利用者の負担や抵抗感の少ない入浴形態となるものを導入したい。

10) 排泄介助時の身体負荷軽減

〈現場の声〉

- 排泄介助時にはトイレへの移動介助に職員が無理な体制をしがちである。排泄介助時の腰への負担を軽減できる簡単に装着可能なツール（機器）を導入したい。